

平成29年9月17の台風第18号の影響による 青江ダム防災操作の効果について

【速報推計】

台風18号の接近により、青江ダム流域では9月16日早朝から雨が降り始め17日13時までの累計は285mmに達した。

このため、青江ダムは流入量が $30\text{m}^3/\text{S}$ に達した17日13時20分より防災操作を開始した。

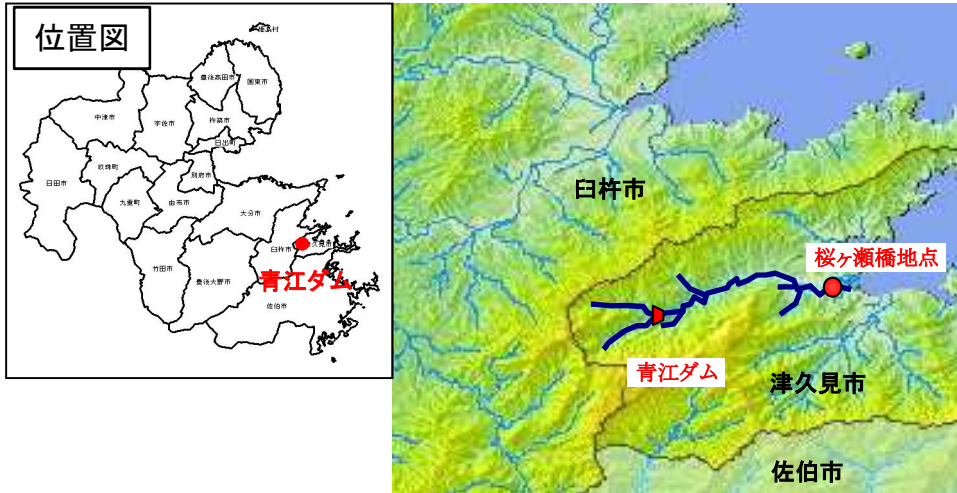
17日15時10分には、最大流入量 $126.84\text{m}^3/\text{S}$ に対し、放流量は $27.70\text{m}^3/\text{S}$ であり、河道流量を $99.14\text{m}^3/\text{S}$ 減少させた。

今回の洪水では、青江ダムによる河道流量を減少させたことにより、津久見市の地蔵町(桜ヶ瀬水位観測所)で約0.68 m水位を低下させたものと推測しています。

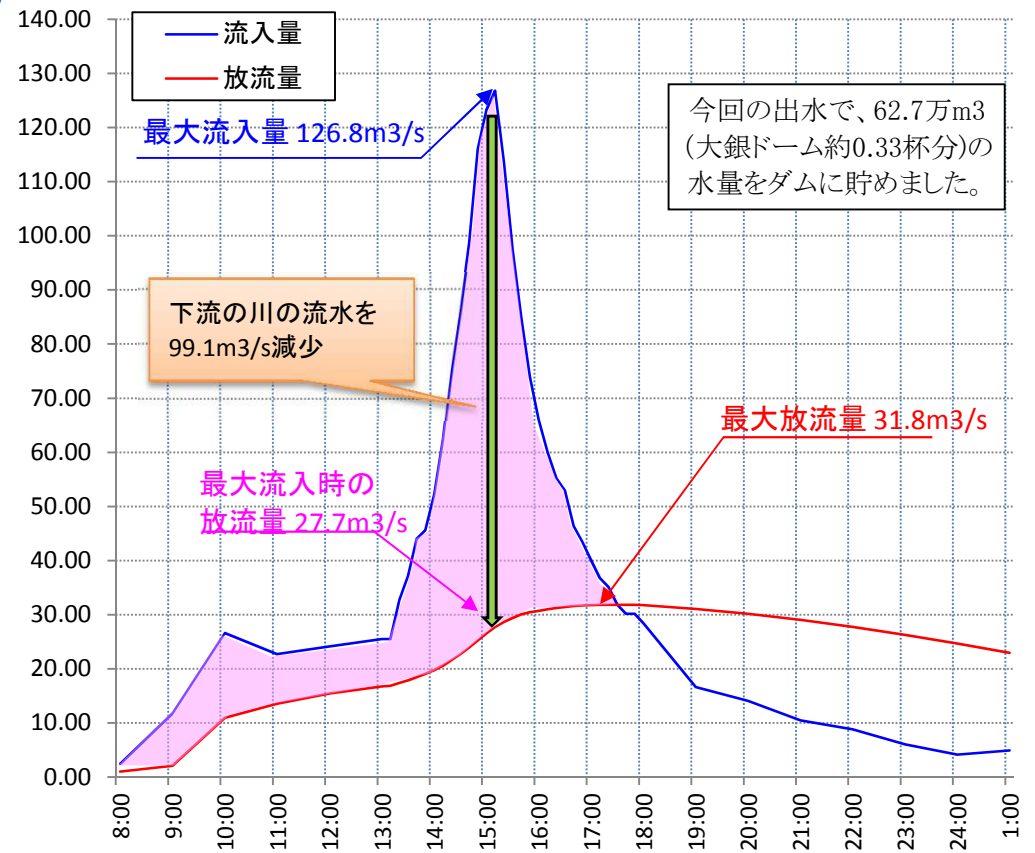


平成29年9月17の台風第18号の影響による 青江ダム防災操作の効果について

【青江ダム位置図】

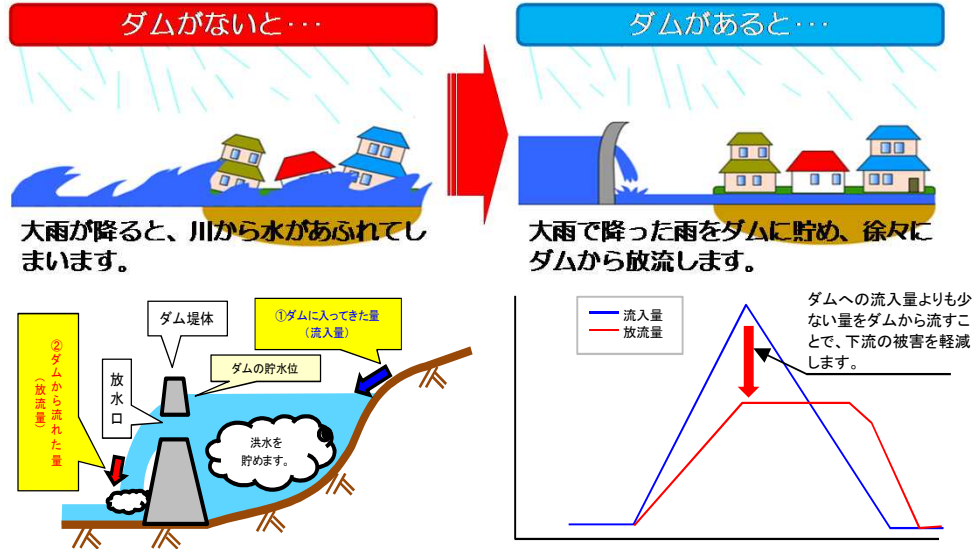


【洪水調節実績図(速報値)】



今回の出水で、62.7万m³
(大銀ドーム約0.33杯分)
の水量をダムに貯めました。

【ダムの治水効果】



最大流入量 126.8m³/sのうち27.7m³/sを下流に流し、99.1m³/sをダムに貯めました。

平成29年9月17の台風第18号の影響による 青江ダム防災操作の効果について

【 津久見市大字下青江 桜ヶ瀬橋地点の河川水位比較 】

